



機構ニュース

Vol.241 2023 July

今月の記事

Top News

国内外の質保証機関等との連携

- 高等教育質保証機関の国際ネットワーク (INQAAHE) 総会に出席 …………… 1
- ジュゼッペ・グロッシ教授講演会「監視下にある欧州の大学」を開催 …………… 3

質保証連携

- 令和5年度大学質保証フォーラムを9月26日 (火) にオンライン開催 …………… 4
- 国際質保証制度設計業務発信ウェブサイト「キャンパス・アジア共通質保証プロジェクト」を公開 …………… 5

調査研究

■ 著書紹介

- 性別二元論は科学的で普遍的なのか? …… 6

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

- 令和5年度4月期申請に係る学位授与試験を実施 …………… 8
- 令和5年度10月期申請について …………… 8

評価事業

大学機関別認証評価について

- 「大学機関別認証評価等に関する説明会」及び「令和6年度に実施する大学機関別認証評価等に関する自己評価担当者等に対する研修会」の開催 …………… 9
- 大学機関別認証評価 評価担当者に対する研修の実施 …………… 9

高等専門学校機関別認証評価について

- 高等専門学校機関別認証評価 評価担当者に対する研修の実施 …………… 9

法科大学院認証評価について

- 法科大学院認証評価 評価担当者に対する研修の実施 …………… 9

主要行事日程

- Schedule (7月~9月) …………… 10

TOP NEWS

国内外の質保証機関等との連携

○ 高等教育質保証機関の国際ネットワーク（INQAAHE）総会に出席

令和5年5月29日（月）から6月1日（木）にかけて、高等教育質保証機関の国際ネットワーク（INQAAHE：International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education）の総会がカザフスタンで開催され、当機構から森研究開発部教授及び国際課職員2名が出席しました。

INQAAHE は総会とフォーラムを隔年で交互に開催しており、本年は総会が開催されました。

“Roadmap to Enabling Quality in Tertiary Education 2030”（2030年の高等教育における質保証を可能にするためのロードマップ）をテーマに、2つの基調講演とパネルディスカッション、5つのグループ討論セッション、7つの分科会、ポスター発表セッション及び会員総会が行われました。

基調講演では、UNESCO・アジア太平洋地域教育局教育イノベーション・スキル開発部門チーフの Libing Wang 氏が高等教育における柔軟な学習経路とその質の促進について講演し、高等教育へのアクセスの機会を拡大するためには、オンライン・ブレンド型の教育、マイクロレディンシャル、オープン教育リソースといった柔軟で幅広い学習の提供により学習経路を多様化することが鍵となると主張しました。また、このような非伝統的な学習の成果を断片化させないために、資格枠組みを構築することの重要性も強調しました。

また、各国における国境を越えた教育やオンライン教育の質保証、マイクロレディンシャルの動向に関する発表が行われ、森研究開発部教授が機構の行う単位積み上げ型の学位の授与と大学等の機関別認証評価業務について紹介しながら、高等教育における非伝統的な教育の促進と質の確保の課題に焦点を当てて発表しました。

最終日に行われた会員総会では、事務局から年次活動や予算案に関する報告があり、「グッドプラクティス・ガイドライン（Guidelines for Good Practices: GGP）」に準拠していると認定された機関の認定式があったほか、来年のフォーラムは2024年6月にルーマニアで開催予定であるとの発表がありました。

今回は東南アジアや東アジア、アフリカ、欧州を中心に約180名の高等教育・質保証関係者が参加し、当機構としても各国の質保証機関や高等教育機関との懇談を行うなど、貴重な情報交換の機会となりました。

※INQAAHE について：

INQAAHE は、1991 年に設立され、高等教育の質の評価、改善及び維持に関する理論や実践について、情報収集及び情報提供を行うことを目的とする国際ネットワーク。当機構は 2001 年 7 月より正会員として加盟している。



分科会で発表する森研究開発部教授



会場風景

○ ジュゼッペ・グロッシ教授講演会「監視下にある欧州の大学」を開催

去る6月26日（月）の午後2時よりノルウェイ・ノード大学およびスウェーデン・クリヤンスタード大学のジュゼッペ・グロッシ教授（Professor Giuseppe Grossi）をお迎えして、「監視下にある欧州の大学」（The Universities in Europe under Surveillance）をテーマに講演会を開催いたしました。開催形式は、東京都千代田区一ツ橋の学術総合センター11階会議室における対面とWebExを使用したオンラインを併用したハイブリッドとし、日英逐次通訳を配置しました。当日は、高等教育研究者をはじめ、対面とオンラインをあわせて約30名が聴講しました。

グロッシ教授は、欧州では著名な会計学者であり、政府会計や組織のガバナンスに関する研究で多くのすぐれた業績をあげられています。近年は、公的組織と民間組織の境界線が曖昧となり、様々な政策分野でハイブリッド化が進んでいることを指摘されています。特に高等教育分野では、政府の圧力、学術界の圧力、市場圧力のもとでアカデミック論理とビジネス論理が併存する大学を指す「ハイブリッド大学」の概念を提唱されました。こうしたハイブリッド化は、高等教育システムのレベル、大学等の機関レベル、機関内の教職員レベル、教職員の業務レベルで同時進行していると指摘しています。また、ハイブリッド化の進行とともに、定量的な業績測定が課され、監査文化が強まる中、どのような変化が起きつつあるのかについて、欧州の7か国におけるケーススタディが紹介されました。結論部では、ハイブリッド化が高等教育の公共価値を高め、社会に良い影響をもたらすためには、アカデミックとマネジメントの対話や多様なステークホルダーを巻き込んだ参加型ガバナンスが必要であるというご示唆もいただきました。なお、ご講演後は、東京大学名誉教授の山本清先生からコメントを頂戴し、議論をさらに深めました。

当日の講演内容については、来年3月刊行予定の『大学改革支援に関する調査研究 2023年度プロジェクト報告書』に掲載されます（<https://www.niad.ac.jp/publication/tyousa/other.html>）。また、今回の講演内容をもとにしたグロッシ教授執筆による招待論文を、当機構の学術誌『大学改革・学位研究』（<https://www.niad.ac.jp/publication/tyousa/gakujutsushi.html>）にご寄稿いただく予定です。

あわせてご参照ください。



講演会（対面）の様子



ジュゼッペ・グロッシ教授

質保証連携

○ 令和5年度大学質保証フォーラムを9月26日（火）にオンライン開催

当機構では、大学等の質保証に携わる人材の育成を図り、日本の高等教育に質保証文化を定着させることを目的として、毎年「大学質保証フォーラム」を開催しています。

今年度は、「高等教育情報のデータ・サイエンス：データ基盤の構築とその活用に向けて」をテーマに、令和5年9月26日（火）午後にオンラインで開催します。

高等教育の質保証システムの重要な構成要素の一つである高等教育にかかる情報の公表について、それらの情報（学生の在籍や卒業、就職の状況、研究活動、施設設備等、教職員等の人材資源、財務に係る情報等）は高等教育機関等によっておおやけにされていますが、さらに頑健なデータ基盤として統合されれば、高等教育機関、質保証機関、政策立案当局、そして社会によってよりよく活用することが期待されます。

本フォーラムは、高等教育情報のデータ基盤の構築とその活用の方法について、国内外の専門家を招いて先行事例を紹介しながら、今後の我が国における高等教育の情報公表について、その展開の方向性を探るために議論します。

なお、フォーラムの詳細や参加登録受付については、本年7月下旬頃より当機構ホームページ上にてご案内予定です。

<https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/forum/>

（過去のフォーラム内容についても報告記事等掲載しております。）

○ 国際質保証制度設計業務発信ウェブサイト「キャンパス・アジア共通質保証プロジェクト」を公開

当機構はこのたび、国際質保証制度設計業務発信ウェブサイト「キャンパス・アジア共通質保証プロジェクト」(日本語・英語)を公開しました。
<https://qacampusasia.niad.ac.jp/>

■キャンパス・アジア共通質保証プロジェクト

当機構は、令和3年度に文部科学省「大学の世界展開力強化事業 ～アジア高等教育共同体(仮称)形成促進(国際質保証制度設計業務)～」の補助事業者として採択され、アジアの大学・学生間国際交流プログラムに関する共通の質保証基準の策定等を通じて、アジアの大学コンソーシアムにおける持続的な質保証の支援に取り組んでいます。

本ウェブサイトは、その取組内容や関連成果資料を、日本語・英語の2言語で国内外の大学、教育担当省・質保証機関関係者等に向けて広く発信することを目的として開設しました。

本プロジェクトの目的・背景や共通質保証基準策定の方針を紹介するとともに、日中韓の大学コンソーシアムが実施する「キャンパス・アジア」のプログラムに対し、これまで中国及び韓国の質保証機関とともに取り組んできた質保証活動である「モニタリング」に関する情報も掲載しています。

今後もプロジェクトの進捗状況を共有しながらコンテンツの充実を図ってまいりますので、本ウェブサイトをぜひご覧ください。



日本語トップページ

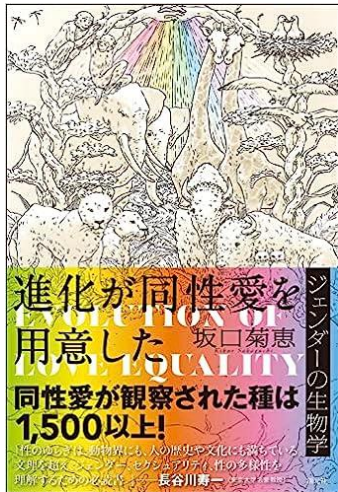


「共通質保証基準」ページ

調査研究

○ 性別二元論は科学的で普遍的なのか？

研究開発部 坂口菊恵



2023/6/27 刊
1,760 円

この6月、創元社から『進化が同性愛を用意した：ジェンダーの生物学』という本を出しました。ヒト

トを含むさまざまな生物の性行動が、必ずしも生殖に直結するものばかりではないことを、古今の観察例をあげて紹介しています。

最近まで、性的マイノリティの存在に関する生物学的説明というと、胎児期のホルモン作用が非典型的だったから同性愛やトランスジェンダーが生じるのだとか、それによってどのように間接的に当事者の遺伝子の拡散が助けられているのだろうか、という議論が中心でした。

本書では、そうしたこれまでの生物学的な研究成果をまるごと否定するものではありません。しかしながら、そもそもの「性的マイノリティ」の定義や研究パラダイムから見直す時期に来ているのではないかと、ということも主張しています。なぜなら、19世紀に近代欧米文化が科学技術と帝国主義、

キリスト教をひっさげて世界を席卷するまでは、同性間で性行動を行う人は、マイノリティでもなんでもなかったからです。

古代ギリシアやローマ、江戸時代の文人たちは男色と女色とでどちらが優れているか、という談義を好んでしましたが、それは「きのこの山とたけのこの里と、どっちがよいか」的な話であって、人格や倫理性と結びついた話題ではありませんでした。また、身体的な性別と社会的な性役割とを、厳密に対応付ける慣例もありませんでした。

このところ、トランスジェンダーの社会的可視化をめぐって世界的に論争が起こっています。実は、性別越境者が宗教者や芸能の役割を担うことは、多くの文化で共通して見られてきました。古代メソポタミアからローマ、アメリカ先住民から南アジアまで、トランス女性が神官やシャーマンを務める慣行が見られました。

ヨーロッパで20世紀初頭まで存在したカストラート（思春期前の美声を保つために、去勢された声楽家のこと）や日本の歌舞伎、仏教における稚児文化にも、その痕跡を見て取ることができます。昭和元年生まれである三島由紀夫のあらわした『禁色（きんじき）』には、日本古来の男色の伝統の記憶と、昭和で一般的になった異性愛主義的な社会常識とのはざまで生きる、ゲイ当事者たちの生きざまが描かれています。

すなわち、ヒトにおいてもその他の生物においても、性の役割が生殖に直結するのみという捉え方は一面的で誤りです。よりひろい人間関係や文化の文脈で性を捉えることにより、包括的な進化理論を発展させる途がひらかれるのではないのでしょうか。

坂口教授 機構ニュース掲載記事

研究開発部新任教員紹介

第 227 号（令和 4 年 5 月発行）

https://www.niad.ac.jp/media/011/202205/no9_1_news227.pdf

著者紹介 「生物学的な性」という見方をアップデートせよ！

第 238 号（令和 5 年 4 月発行）

https://www.niad.ac.jp/storage/011/202304/no9_1_news238.pdf

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

○ 令和5年度4月期申請に係る学位授与試験を実施

「大学改革支援・学位授与機構 令和5年度4月期学位授与試験」として、令和5年6月11日（日）に、小論文試験（東京・大阪）と面接試験（東京）を実施しました。試験の実施状況は次のとおりです。

	（面接試験）	（小論文試験）
（1）受験予定者数	1人	262人
（2）受験者数	1人	255人
（3）欠席者数	0人	7人
（4）受験率	100.0%	97.3%

今後、各専門委員会・部会における修得単位の審査及び学修成果・試験の審査を経て、令和5年8月25日（金）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には学士の学位を授与する予定です。

○ 令和5年度10月期申請について

学位授与申請は、毎年度2回（4月期と10月期）受け付けており、次回の申請は、令和5年度10月期申請となります。

- 申請に関する詳細については、当機構ウェブサイトの下記ページに掲載している『新しい学士への途』（令和5年度版）をご覧ください。

https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryoku.html

（トップページ > 学位の授与 > 申請案内書『新しい学士への途』、『学位授与申請書類』等）

- なお、申請には『学位授与申請書類』（令和5年度版）の冊子が必要となりますので、上記ページよりご請求ください。

※ 申請書類等は日数に余裕を持ってご請求ください。

評価事業

■大学機関別認証評価について

○「大学機関別認証評価等に関する説明会」及び「令和6年度に実施する大学機関別認証評価等に関する自己評価担当者等に対する研修会」の開催

国・公・私立大学の自己評価担当者等を対象として、当機構が実施する大学機関別認証評価等の趣旨・目的、実施方法等についての説明会、及び令和6年度に当機構の評価を希望する国・公・私立大学の自己評価担当者等を対象とした自己評価書の作成方法等についての研修会を実施しました。

今年度はオンライン形式で、6月19日（月）14：00～15：30に開催いたしました。

※上記の説明会及び研修会の配付資料については、当機構のウェブサイトに掲載しています。

https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/ce_university/daigaku_kanren/entry-5025.html

○ 大学機関別認証評価 評価担当者に対する研修の実施

令和5年度に実施する大学機関別認証評価をより実効性の高いものとするため、6月14日（水）から20日（火）にかけて、当機構の評価担当者に対して、評価の目的、内容及び方法等についてオンライン形式で研修を行いました。研修会においては、光田研究開発部教授による「大学機関別認証評価について」等の説明があり、その後質疑応答が行われました。

■高等専門学校機関別認証評価について

○ 高等専門学校機関別認証評価 評価担当者に対する研修の実施

令和5年度に実施する高等専門学校機関別認証評価をより実効性の高いものとするため、6月20日（火）、23日（金）に、当機構の評価担当者に対し、評価の目的、内容及び方法等についてオンライン形式の研修を行いました。研修においては、飛原研究開発部特任教授による「高等専門学校機関別認証評価について」等の説明があり、その後質疑応答が行われました。

■法科大学院認証評価について

○ 法科大学院認証評価 評価担当者に対する研修の実施

令和5年度に実施する法科大学院認証評価をより実効性の高いものとするため、6月15日（木）、19日（月）に、当機構の評価担当者に対し、評価の目的、内容及び方法等についてオンライン形式の研修を行いました。石井研究開発部教授による「法科大学院認証評価について」等の説明があり、その後質疑応答が行われました。

主要行事日程

○ Schedule

7月

日	行事名	担当課
12日	令和5年度大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第2回）	事業推進課
21日	令和5年度大学・高専機能強化支援事業 選定結果通知	助成課

8月

日	行事名	担当課
5日	「大学改革支援・学位授与機構で学士の学位取得をめざす方へのオンライン説明会」（放送大学とのオンライン合同説明会）	学位審査課
21日	大学機関別認証評価検討ワーキンググループ（第2回）	評価支援課
25日	学位審査会（令和5年度第2回）	学位審査課
30日	大学ポートレート運営会議（第19回）	評価企画課

9月

日	行事名	担当課
9日～ 10月4日	令和5年度10月期学位授与申請（データ入力）受付期間	学位審査課
19日	令和5年度法科大学院認証評価委員会（第2回）	評価支援課
22日～ 10月4日	令和5年度10月期学位授与申請（書類送付）受付期間	学位審査課
26日	令和5年度大学質保証フォーラム	国際課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

